

国見町の維持向上 すべき歴史的風致

国見町は、古代より陸上・河川交通の要衝であり、複数の峠が所在する境界の地でもありました。この地勢的特徴を反映し、源頼朝と奥州藤原氏の数万の軍勢が文治5年(1189)に戦いを繰り広げた古戦場の「阿津賀志山防塁」(国史跡)が現在に守り伝えられています。また、江戸時代に3か所の宿場

が所在し、かつての養蚕業の隆盛を反映した農村集落とともに歴史的景観を形成しています。豊かな自然と一体となった伝統的な祭礼や信仰・生業に伴う活動が残され、国見町独自の建造物や営みが地域の人々により脈々と受け継がれていることで、本町独自の歴史的風致が醸し出されています。



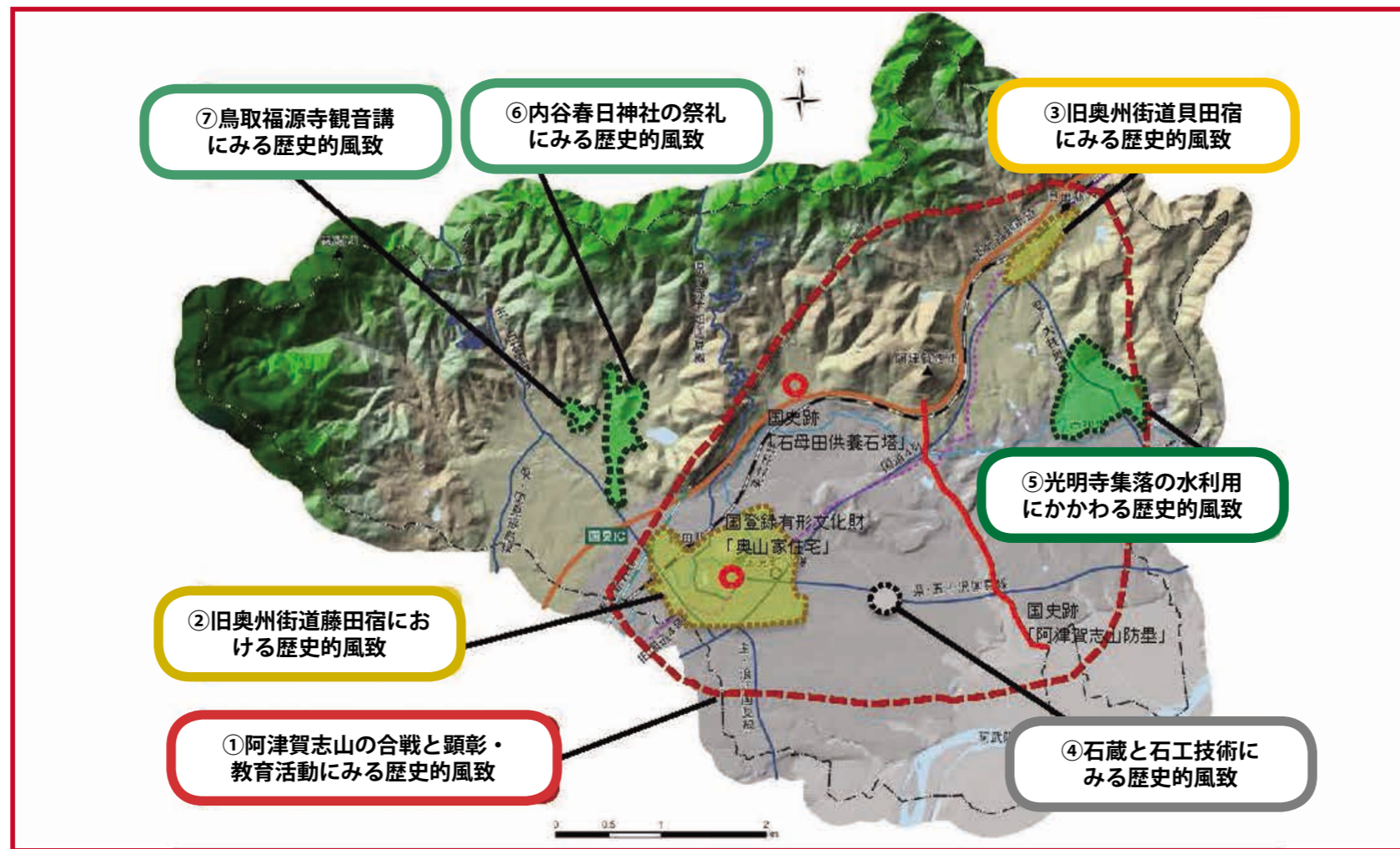
*阿津賀志山全景



*国史跡「阿津賀志山防塁」(下二重堀地区)



*国登録有形文化財「奥山家住宅」



① 阿津賀志山の合戦と顕彰・教育活動にみる歴史的風致

阿津賀志山とともに本町のシンボルである「阿津賀志山防塁」は、合戦が行われてから800年間、人々により守られてきました。現在も顕彰・教育活動が行われ、町民が共有する誇りと町の歴史性を感じる場所となっています。

*顕彰・教育活動(案内活動)

② 旧奥州街道藤田宿における歴史的風致

旧藤田宿では、山車と神輿が激しくぶつかる、もみ合いを特徴とする「鹿島神社例大祭」と、江戸時代に行われた六斎市の名残をとどめる「農業市」「だるま市」が現在も行われています。町並みの歴史と伝統を反映した活動が多くの人々により受け継がれています。

*鹿島神社例大祭(もみ合い) *農業市

③ 旧奥州街道貝田宿にみる歴史的風致

宿場の名残と明治・大正期の歴史を色濃く町並みに残す旧貝田宿では、祭礼や最禪寺の観音講などが貝田の歴史を反映し、人々の絆を深める活動として行われています。

*観音堂 *秋葉神社例大祭

④ 石蔵と石工技術にみる歴史的風致

国見石が産出する本町の特徴的な産業である石材業は、大正・昭和の歴史的な石蔵とともに守られています。石工技術により町内一円に建築された石蔵が、本町を特徴づける固有の景観となり残されています。

*現在も使われている石材加工場

⑤ 光明寺集落の水利用にかかわる歴史的風致

光明寺集落では、清らかで豊かな湧水が伝統的な水利用と信仰に結びついています。湧水と信仰に伴う活動により清浄な空間が作り出され、現在も歴史的な寺社が残る聖域を形成しています。

*湧水を利用した水場

⑥ 内谷春日神社の祭礼にみる歴史的風致

内谷春日神社では、祭礼で奉納される太々神楽が明治15年(1882)より地区の人々の協力により継承されています。社殿に響く太鼓と笛の音色が、地区の伝統芸能と祭礼のにぎわいを伝えています。

*内谷春日神社太々神楽

⑦ 鳥取福源寺観音講にみる歴史的風致

鳥取集落では、福源寺地蔵庵観音堂を観音講の人々が守り、巡礼者へのもてなしや法会が行われています。観音信仰が地域に根付き、鳥取集落の人々により活動が続けられてきています。

*福源寺観音堂の天井絵